26H-pm03

薬剤師による､がん化学療法薬剤説明

○中村　久美[1], 中野　和佳[1], 鬼窪　利英[1], 北原　勝彦[1], 白澤　吉哲[1]([1]相澤病院薬)

【はじめに】

当院では、外来でがん化学療法を患者さんに安心して受けていただけるよう、医師・薬剤師・看護師で検討を重ね、２５種類のクリニカルパス（以下パス）を作成・活用している。外来での医師診察時間は分刻みであり、抗がん剤についての説明を十分行うのにはかなり無理がある。それに対し、患者さんの抗がん剤への疑問・不安は大きい。そこで薬剤師がこの説明部分に関わることで外来化学療法パスのインフォームド・コンセント充実を図っている。

【実施概要】

外来でがん化学療法を受けていただく患者さんのメリットは入院しなくても治療を続けられることであるが、それは逆にフォローしてくれる医療スタッフが傍に居ない時間が長いことを示す。病院を離れた時間の不安を少しでも軽減できないか？を念頭に、患者さんが特に知りたい部分の薬剤説明を中心とした小冊子を薬剤師が作成した。パス適応時、薬剤師はこの小冊子を用い薬剤説明を行い、患者さんからの疑問不安等を含め、電子カルテ内に記録を残し医師・看護師と情報共有する。また経口抗がん剤開始の患者さんの院外処方箋には、告知済みであることがわかるシステムをとり調剤薬局との連携に役立てている。

【効果・今後】

薬剤師からの説明に「非常に満足」「満足」が 93%を占める良好な反応が、患者さんアンケート実施で示された。小冊子を利用することで薬剤師説明の標準化が図れた。患者さんの治療に対する想い、副作用への不安を目の当たりにし、今後は小冊子内容の充実、発現した副作用へのフォローに努めていきたい。